

風土記の丘の花だより²⁸⁵

今、そしてこれから見られる植物(2025年8月9日)

これを書いている8月6日、天気予報では「明日は雨が降るでしょう」と言っていますが、果たしてどうでしょうか。かんかん照り続きで、ほんとうに花も虫も少ない夏です。でもなんとか4種類を見つけました。順番に紹介します。旧谷山家住宅の庭で、今年もきれいなカノコユリの花が咲きました。



去年の記録によると、花期は約3週間でしたから、これをご覧いただく頃にも十分咲いていることと思います。カノコは「鹿の子」のことで、花びらの斑点を鹿の子どもの斑点に見立てた名前です。花茎がいくつにも分かれ、花数も多いので、全体的にとっても華やかに見えるユリです。元は、日本に自生するユリでしたが、栽培も盛んになり、様々な品種がつくられています。少し前まで、万葉植物園にも、それらしいユリが咲いていました。



続いてユリです。万葉植物園などに、白いユリがたくさん咲いています。タカサゴユリです。最近特に増えて目立つようになってきました。タカサゴは台湾のことを指し、この花が外来植物であることが分かります。繁殖力が強く、他のユリ類と違い、種子から発芽し、早いものでは1年で開花します。それで、特に高速道路沿いでは、白い花がどこまでも続いて咲いている光景を見ます。山間部にもどんどん広がっていき、それこそ「どこでも見られるユリ」という感じになってきています。



夏に咲くフジで、ナツフジです。そのまんま、何のヒネリもない名前ですが、きれいな花ですね。春に咲くフジほど大きくなく、色も全く違います。房の長さはせいぜい10センチ余りです。他の木などに巻き付いて伸びるつる植物です。昔は「時をたがえて咲く藤」という意味の「ときじきふじ」と呼ばれていました。万葉集には「我がやどの ときじきふじの めずらしく 今も見てしか 妹が笑まひを」という歌が残っています。でも、この花を詠んだ歌は、これだけです。



上の3つに比べると、いささか華やかさに欠ける花ですね。サジガンクビソウといいます。「さじ」という言葉は今ほとんど使いませんが、スプーンのことです。葉がそれに似ていて、花が煙管(きせる)の雁首(がんくび)に似ているという意味の名前です。こう見えてもキクの仲間です。このガンクビソウやヤブタバコの仲間にはよく似たものが多く、ややこしいので、興味のある方は図鑑やスマホなどで調べて更に深く勉強してください。

松下